

安永五 丙申 歳 靈辰

肥後熊本河南連

乞加ろく世れ初くふも蘇粥 梅夕

佛乃座摘ま也黒虫の衣もり 僧 襟姿

起きくしてゆも袷茶紙離き足 兎園

摘けの慾に拵れれ相せり 杏和

さきもろくさる若菜の露ふら 松柯

畑主のそれと替りぬ 薪うら 文調

早のあれそれと合も 粥の中 一志

小カハ誰かあいら 芥蘇一畝 探支

人並にあり氣とれ 子菜摘 市臨

七粒や七もに合りやの好い 梅里

指小本も二度の勤や暮のり 嵐公

み菜やや音に子ねき歩り 井爪

こせろく 羞りもみ菜摘あり 百哉

そこららの假名や 袷のあふら 雪扇

摘まもろく名もれ 巾もとめてふ 僧 二哉

短りくはみ摘まれぬ樹に 斗南

母の裏に袷よりり 琴江弾

くく袷に狂者の例もあれ 諸君あり

そくあいらももろく 袷の 渭長

ふれ佳良の無きはこそかり

あいらの袷も色もひらり

こくく七種の袷も

あいらももろく

しりももろく

俣西ももろく

百童

摘まろく

京ももろく